

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2974800043
法人名	増春建設 株式会社
事業所名	グループホーム増春 悠久の里
所在地	奈良県葛城市新在家393-3
自己評価作成日	平成23年2月14日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先<http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カリア
所在地	大阪市天王寺区堀越町1-1 四天王寺堀越ビル
訪問調査日	平成23年3月18日
評価結果決定日	平成23年4月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれロケーションも良くホーム内もゆったりしている。 ゆったりとした空間内で生活出来る。 旬の野菜も作り、ご近所からの差し入れもあり、料理のだしはかつおとこんぶで取っている。 夜間は二人体制で利用者の安全に努める事が出来る。 四年間職員の離職もない。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設のすぐ前に道の駅、裏には神社、広い公園の周囲には桜の木が植えられており自然に囲まれた環境がとても良い立地条件に恵まれています。 木造の二階建て、ごく普通の民家のような建物。 室内はゆったりとした空間で入居者の方ものんびりゆったり暮らされています。 責任者の方はとても前向きな姿勢でまず第一に入居者の方がお元気で、安心して暮らして頂けるよう常に考えられ、スタッフも全員協力的で、また地域住民との関わりをととても大切にされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	項目	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

ユニット名 ()

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が名札の裏に理念を書いたカードを入れ携帯している。振り返る機会を定期的に持ちながら理念の実践に向けて取り組んでいる。理念は玄関に墨字で書かれ額に入れて掲示している。	職員の入居者の方へのかわりが理念に沿った支援が実践されており、地域住民との関係を大切にしようと努力されているのが窺えました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事などに参加している。秋祭り、とんどなどにも参加している。美化運動などにも参加している。	地域行事への参加、清掃などには積極的に出向き、地域住民との関わりを大切に考えられています。隣の敷地で畑仕事されている方には必ず声をかけられ施設の事も理解して頂けるように働きかけています。お互いにコミュニケーションがとれ野菜を頂いたりと徐々に信頼関係も深まってきています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設前にホームの見学会を実施しており、自治会や地域の方々に説明している。季刊誌「楽園」には法人代表の思いが書かれ、ホームの様子も紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会、地域の方、共に先に議題を決めそれについて意見交換をしている。消火訓練、救急救命なども一緒に行っている。	2か月毎に地域の方、ご家族、入居者の方、市の職員の参加の元実施され、外部評価の報告、意見、要望等吸い上げ必ず運営の反映に繋がられています。又、この機会を利用し議題を決め研修も行っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政とは密な交流が有り担当者がホームを訪問することもあり、相談もしやすくアドバイスや情報ももらえている。地域包括センターとは連携を図りながら認知症のケアについて最良な方法や取り組みを考えている。	ホームの質の向上を目指し市町村とはより良い関係が保たれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。	実際には玄関は施錠されていますが、入居者の方の自由を損なうようなあからさまなものではなく、希望があれば何時でも散歩に出られたり配慮が見られます。	入居者の方の安全面を考えられ、ご家族の了解を得ての施錠とお聞きしましたが一度、日中鍵をかけず安全に過ごせる工夫に期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の人格を尊重し対応している。虐待防止法については職員で勉強会をし、講習も受けた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケース会議で話し合いをしている。今の所成年後見制度を必要とする利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書で説明し、家族様の疑問などにもきちんと説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年5月に家族会を開催し意見や要望を頂いている。得られた意見にはすぐに対応しケアに活かしている。話し合いの場を設けると共に昼食会を開き調理から食事、後片付けも一緒に行う。玄関には目安箱を設置しアンケート用紙も置いてある。	ご家族、入居者の方、外部の方の意見、要望にはすぐに対応されケアに活かされています。目安箱も置場所に配慮され誰でも意見の言いやすいような環境を作っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議で意見を聞くようにしている。	責任者の方は常に職員の意見を聴かれ良かれと思うことは敏速に対応されていること、また職員は意見、希望が言いやすいとヒヤリングで確認できました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	日々の勤務で把握し意見も聞き職場環境には、十分に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた研修等外部の研修には順次参加出来る体制を作っている。研修講習後は資料の回覧や会議等で伝達、職員間で共有を図りホーム内でも学びたいと思う事柄のアンケートも取りそれによって勉強会も行っており訪問看護師等に講師を依頼している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協議会に参加している。懇意にしている他事業所とは、お互いに見学に行き来して、その場で得られた知識をケアに活かしている。更に職員同士の交流も図りたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望を聞いてケアプランに繁栄させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族・利用者・職員が相談の上決めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	月1回のケース会議で話し合い、それに基づき介護計画を作成している。家族の面会時に、意見を取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等を一緒に行いながら教えて頂く場面を作り多くの経験からの楽しい話や苦労話を聞き、思いを共感し利用者同士の助け合いの場面も多く見られる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築いている。面会時の情報提供、さびしい時には家族へ電話をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族はもとよりホームに入所されるまで住んでいた近所の方、会社の同僚、部下の方の訪問もあり、はがきや手紙もあります。	101歳の入居者の方の以前部下だった方が面会に来て下さったり、手紙のやり取りなどもあり昔の馴染みの関係を大切にされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれ相手の事を気にかけて支え合っている。1階リビングに昼間はほとんどの利用者様が集まっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所、亡くなられた方にも近況報告など電話で伝え、3ヶ月に1度は季刊誌も送り近所に来た時は寄ってくれる。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を把握している。 (買い物好き・散歩・カラオケなど)	日々の関わりの中でご本人や、ご家族の意見、要望をキャッチし一人ひとりの思いを出来る限り支援出来るように努力されています。洗濯物を畳んだりする表情はともアットホームさを感じました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家で使用した物を持ち込まれている。(化粧台・テレビ・タンスなど)以前世界中を旅行された入居者様から教わることも多々あり職員も楽しみにしている。俳句作りをされている方もおられ季刊誌で紹介している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月の会議で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のケース会議で話し合い、それに基づき介護計画を作成している。家族の面会も頻繁にあり意見をとりいれている。	ご本人、ご家族の要望など十分に取り入れ、又職員間でも話し合い根拠を持った暮らしを反映できる介護計画が立てられています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・ケース記録・連絡帳で情報を共有している。朝礼で夜間帯との引き継ぎを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じてや対応している。 (例)通院の為の車椅子レンタルなど		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望を把握している。 (自然との調和・人との関わりを大切に)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は近くにあるので月2回の往診をお願いし、週1回の訪問看護の来苑、歯科医の検診もあります。協力医療機関と連携している。	入居時にご家族、ご本人と相談しますが立地条件にもより殆どの方が事業所のかかりつけ医になっていますが、希望があれば以前の主治医に相談に行かれたりと柔軟な支援がされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護で管理出来ている。毎日バイタルサインの測定を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と提携できており、ケアワーカーに相談もできるようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアに向け医師、看護師、家族様、職員で話し合っている。(看取りもする。)	入居時にご家族、ご本人に説明確認を、又、家族会の時毎年一回必ず再確認されています。訪問させて頂いた前日病院で亡くなられホームに帰って来られ皆でお別れをされたと聞き、又、今夜はお通夜にお参りされるとの事。入居者の方は自分の家と思い帰ってこられたのを職員ともども暖かく迎えられていました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防火・救命訓練で初期対応出来る様行っている。月3回避難訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣近所、消防署とは馴染みにさせて頂いている。	5月、10月に近隣の方、消防署員の方とで防災訓練を、又毎月5、15、25日の3回職員入居者の方と共に災害時の訓練されています。積み重ねがいざ災害が起きた時、自然と体が動いてくれたらとの願いを込め安全場所に避難出来るように日々努力されています。備蓄も確保されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重し対応している。日頃から言葉使いには気をつけている。	日々の関わりの中で入居者の方の人格を損なわないような配慮、声掛けがみられました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中から引き出すように心掛け、何気ない会話の中や表情から気持ちを汲み取りセンター方式にて情報も収集し共有を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの希望に合った生活を支援している。起床時間や就寝時間は自由で利用者のペースに合わせた支援をしている。昼食後は居室に戻る方、リビングで過ごす方など自由な暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員の中で美容師の免許を持っている者がいる為、希望を聞き苑の中で行っている。美容院は連れていく。化粧品も持ち込んでおられ、衣類も同様。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に準備、片付けも行う。	食事は入居者の方、職員と同じテーブルを囲んで楽しく会話されながら、午後のおやつ作りは全員で力を合わせながら和気あいあいとされていました。時々外食されることもあったりと一番の楽しみでもある食事には変化をもたらせる工夫もされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者が栄養バランスを考慮した福祉献立を利用し、食事は毎回チェックし、バイタルチェック、体重測定と共に記録に残し、状態に合わせ量を調節したり、きざみ食やお粥で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕と出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ利用者はなし。リハパン使用で排泄パターンはケース記録、業務記録で管理している。	一人ひとりのパターンは毎日記録され、その日の状況を全員が把握し、トイレ誘導時などされがない声掛けされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ薬に頼らず食べ物に工夫をしたり、運動をしたりしてカバーしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低でも週3回は入浴出来る様にしている。出来ない方は足浴などで対応。好みの湯温も聞いている。温泉にも行くことがある。	週3回の入浴日がありますが、出来ない方には足浴を毎日行っています。安眠を促し大変喜ばれてれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。プライバシーを損なわないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活を継続出来る様に家事やカラオケ作品作りなど1人1人の得意なこと出来ることをして頂いている。新聞を購読している方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	環境に恵まれた地域で雨天でない限り散歩は行い買い物や喫茶店に行ったり外食に出かけたりしている。車でドライブ、ウッドデッキで日光浴、花見や観劇に行ったりもする。	自然の環境に恵まれているので毎日欠かさない散歩、買い物、喫茶店に出かけたり、桜の花見にはお弁当を持って出かけたりと、四季折々の自然を楽しめたりと入居者の方のペースに合わせた支援がなされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族と相談の上で預かり金と調整し支援している。本人が持っている人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に出来るようにしており自らがかける。手紙のやり取りもしている。家族、同僚などからも送ってくる。出すこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分には季節に合った飾りや絵画が掛けてあり、食卓やソファ等気に入りの場所で過ごすことが出来る。和室の両脇には段差を作り腰を下ろして一息つける場所になっている。リビングの窓からウッドデッキに出る事ができ市内が一望でき、夜景や夏の花火大会を楽しむことができる。	室内は明るく、暖かい日差しが共同の和室に入り穏やかに過ごせます。畳の長椅子がお置かれ誰でも一息つける場所があり、ごく自然に入居者の方が寄り添い過ごされておられるで家族のような温もりを感じました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一階の畳の部屋に集まり気の合った者同士の会話もあり、居室で過ごす時間も持てるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は和室と洋室が有り家庭で使用していたテレビ、家具、冷蔵庫、お気に入りの装飾品、大切な仏壇、趣味の物を持ち込んでいただき、居心地の良い居室作りをしている。	和室、洋室と入居者の方が選べる居室が提供され自宅で使っていた馴染みの家具、仏壇が置かれていたり、自宅で居るような環境が整えられていました。プライバシーを損なわない配慮の中に又安全に気を使って入口の戸に目立たない四角の隠し窓が付けられ小さなきれいなカーテンが掛けられたりの心配りが窺えました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどは見やすい字で書いている。居室の表札は飾りを付け目印にしている。		